



2025年度 11月号
No. 7

たくましく ゆたかに 大地を吹く 風になれ

simba 獅子波

ナイロビ日本人学校

The Nairobi Japanese School

P.O. Box 948 –00502 Karen Nairobi Kenya

Tel : 0746 – 978 – 378

E-mail : njs.main@gmail.com

学習発表会を通しての成長へ

学校環境の安全確保と児童生徒が楽しく遊べる場所へ

南西アジア・中東・アフリカ地区日本人学校等校長協会を通して

過去、現在、そして未来へと繋ぐ学校経営の大切さ

校長

10月25日土曜日、創立55周年学習発表会でした。今回のテーマは「チャレンジ 輝く 学びのステージ」。児童生徒が、4月から学んできた日頃の学習の成果を学習発表会用にアレンジした発表でした。達成感を味わい、意欲の向上を目指し、合唱・合奏・研究発表・朗読・体験発表、英語スピーチなどを行いました。それぞれの学年や発達段階に応じた内容で、楽しさや喜び、美しさなどを感じることができ、感動した学習発表会でした。特に、日本人学校としての児童生徒の英語力は昨年度以上で、学校としての英語教育の成果を感じることができました。これはイングリッシュタイムにおいて全教員が ONE TEAM となり取り組んでいる成果だと感じました。

当日は、前日までの準備や練習段階で思うようにいかなかった学年やグループも、その中でお互いに支え合い、考え、協力し合い、力を出し切ることの大切さを学んでいると感じました。練習過程で一人一人がグループや班、学級・学年の一員としての役割を果たし、自覚を深めることができたからこそその素晴らしい発表会になったと思っています。児童生徒が緊張しながら精一杯頑張っている姿があり、終わってからのホッとした表情には、やりきった満足感や達成感に溢れています。

校長として、学習発表会は、その日だけの発表ではなく、「過去」そして「現在」さらに「今後(未来)」に繋げていくことが学習発表会の意図だと考えています。学習発表会の内容は、今まで学んできたことを生かしての発表です。この発表内容について、これからどう考えさせ、どう行動させていくかがとても大切になります。学習発表会が終わりではなく、いかに、これから自分の自分や、グループ、学年、学校生活に繋げていくかがとても大切です。保護者、日本人会の皆様には今後ともご支援やご協力を願い申し上げます。

先日、KPLC(ケニア電力)の方が来校し、本校と近隣校との境にある電線に本校の木がかぶさっているところで急遽伐採が行われました。また、文部科学省から「学校環境における

「樹木の安全確保について」の指導がありました。日本では、校庭の大木の枝が落ちて、下にいた校長に直接あたり死亡する事故が発生しました。そのため、再発防止と学校環境の安全確保に万全を期するように指示がありました。本校の校庭内の木は、約10年間、きちんとした剪定や安全対策がとられておらず、下の枝だけを切って、いつの間にか校舎より高く、校舎の避雷針よりも高くなっていました。文部科学省からの学校環境における樹木の点検と安全確保をKPLCの伐採後に行いました。以上のような理由で、緊急性を感じ、最悪な状況を起さないために、そして児童生徒の安全確保のために、急遽、KPLCの伐採も含め約20本の木を伐採しました。

また、今回の学習発表会（中学1・2年生の発表）で中庭の池についての発表がありました。実は、文部科学省からの木々の安全管理だけでなく、学校環境衛生管理においても、池や水たまり、下水道、雑排水槽などにおける幼虫（ボウフラ）等について十分に注意するように指導がありました。本校の池は、卒業記念として造られましたが、学校環境衛生管理において、改善工夫をしなければならない池となります。学習発表会で取り上げられたことで、今後、この池が新たな池に変わることを願っています。学校環境衛生管理としては、水が流れるように造る必要があります。管理する方法として、次の3通りのいずれかで管理するように言われています。①業者が管理する池にする。②教師と児童生徒が管理できる池にする。③児童生徒だけで管理できる池にする。どれにしても、今の池では学校環境衛生管理上対象外となる池なので工夫改善が必要になります。今後は児童生徒のアイデアも生かし、新たな池にできればと考えています。

中庭は、危なかった木々がなくなり、広い広場（第2校庭）となりつつあります。学校運営委員会や学校としては、子ども達が遊べる場所、自由に走り回れるランニングコースや一輪車乗り場、低学年向けのサッカー場や、低学年向けの遊具などが配置できるようになればと考えています。今後、整備する中で保護者の皆様のご意見もお聞かせいただき、今までのただの緑地から子ども達が遊び、保護者の方もリラックスできるような場所にできたらと考えています。

最後に、11月6日(木)～7日(金)、南西アジア・中東・アフリカの日本人学校等校長協議会がナイロビで開催されます。来賓として文部科学省、外務省、海外子女教育振興財団等の代表の方々が来られます。今回は、本校のよさを他の日本人学校に紹介できるよい機会であると捉え、本校の特色である教科担任制、複式指導、英語教育、ICT教育、キャリア教育、グローバル教育等を紹介するために準備を進めているところです。児童生徒においても今回の学習発表会同様に授業中に最高のパフォーマンスを發揮できるように先生方が準備を進めています。

保護者の皆様には、校長協議会の翌週に開催される日本人会主催のふれあい祭りで、PTA活動において様々なご理解とご協力をいただくことになると思います。

学校としては、これからも児童生徒のために教職員がONE TEAMとなって頑張っていきますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ツアボで出会った学び

2025年度 修学旅行報告



3日間の小さな大冒険

今回の修学旅行にあたたかいご理解とご協力をありがとうございました。子どもたちはツアボの自然と人との出会いの中で、「学びを生かし、文化に親しみ、全力で楽しむ」を自分たちの力で形してくれました。ここでは、この3日間の歩みと学びをお伝えします。

出発とサファリ

早朝の集合からSGR乗車までは、点呼や体調チェック、荷物確認まで自分たちでスムーズに。班長の声かけで「5分前行動」が自然に根づき、遅れそうな友だちへのフォローも見られました。車内ではしおりで流れを確かめ、必要な持ち物を班ごとにチェックする姿が印象的でした。

サバンナでは、ライオンやゾウ、バッファロー、キリン、シマウマ、ディクディクまでを静かに観察。ルールを守りつつ、「感じる → なぜ？ → 確かめる」の流れで学びが深まりました。とくに夕刻の群れの動きには「どうして今なの？」という問い合わせが生まれ、ガイドや資料で確かめてメモに残す。そんな前向きな姿勢が光りました。



現地が教室——自然×歴史×文化をつなぐ



かけ声とリズムがひとつに——文化は出会いで生きる。

育ったのは「良い集団」 ——振り返りと次への一歩

雨でキャンプファイヤーは中止に。しかしすぐに切り替え、夕食前のロビーで円になり、「できたこと」と「次の課題」を一人ずつ共有しました。約束は“守られるもの”から“自分で選ぶもの”へと意識が変わっていました。続く班長会議では、「集合5分前＝ボトル満水・トイレ済」「鍵の一括管理」「しおりの要点再確認」を自分たちで決定。翌朝、本当に集合が早まり、決めたことを行動に移す力が育っていました。ホテルや車内でも声の大きさや共有スペースの使い方、部屋の整頓に気を配り、「やさしく・具体的に」注意し合う姿が見られました。ゲームドライブでは双眼鏡を譲り合い、「右2時！」と声をかけながら喜びを分かち合う姿も印象的でした。7月から積み上げてきた「助け合い」「時間意識」「相手への配慮」が、この2泊3日で確かな力となり、*緊張感とやさしさが調和する“良い集団”*へと成長しました。

この3日間で子どもたちが手に入れたのは、動物の名前や思い出だけではありません。目の前の出来事に「感じて」「なぜ？」と問い合わせ、仲間と確かめ合う、その“学び方”です。時間を守る・声をかけ合う・相手を尊重することも、ただの決まりではなく自分で選ぶ行動として根づき始めました。ここからが本番。学校生活の中で、その力をさらに育てていきます。ご家庭でも、ぜひ会話のきっかけにしてみてください。「いちばんの気づきは？」「その続き、明日どうしてみる？」

修学旅行は終わっても、子どもたちの“学びの旅”は続きます。引き続き温かく見守っていただければ幸いです。

KWSでは保全の意義を体系的に学び、ホテル併設のタイタヒルズ・ミュージアムでは第一次世界大戦と地域の歴史に触れて、自然（サイエンス）と歴史（ヒストリー）を立体的に結び直しました。厨房での調理体験は衛生・計量・段取りを“手で学ぶ”機会に。

マサイの歓迎ダンスにはソーラン節で応え、かけ声と足踏みのリズムがひとつになつた瞬間、客席の手拍子が広がり会場が大きな輪に。村や学校での質疑、英語での値段交渉まで、文化理解と言語実践が自然に交差しました。



「できたこと、次の課題。ことばにして、次の一步へ。」



安全運行・サポートへの謝意を表明。

「ナイロビで半年が過ぎ」

ナイロビ日本人学校 教諭

ナイロビに来て、もう半年以上が経ちました。最初の頃は何もかもが新鮮で、同時に少し不安な気持ちもありました。しかし、時間がたつにつれて、だんだんとこの街に馴染んできたような気がします。そんな中、何人かの人に「ナイロビには慣れましたか?」と聞かれことがあります。そのたびに、私はどう答えたらいいのか、ちょっと戸惑ってしまいます。

生活に慣れることはできてきた気がします。スーパーで買い物をしたり、カフェに行ったりするようになってきました。でも、「ナイロビに慣れた」と言えるのかは、まだちょっとわからないのです。なぜそう思うのかと言うと、それは日本人学校に勤め、日々の生活がほとんど日本語だからかもしれません。また、街に出かけることも少ないため、ナイロビの街や人々と触れ合う機会もあまり多くないからかもしれません。そんな中でも、振り返ってみるといくつかの楽しい経験もありました。一度、アパートのエレベーターの中で、「日本から来たのですか?」と英語で聞かれ、「はい」と答えたたら、「私の奥さんはトルコ人です。トルコと日本は仲がいいですよね」と言われたことがあります。少し大袈裟ですがこれは異文化交流の一つかもと感じました。また、スーパーで会計のとき、レジの人へ「ハバリー」と声をかけたら、スワヒリ語の挨拶をいくつか教えてもらったこともあります。それに、ドライバーさんにウガリの作り方を教えてもらって作ったこともあります。こうした小さなやり取りを通じて、少しずつ異国の文化や言葉に触れていることに気づきました。もちろん、今まででは英語やスワヒリ語を使うことはほとんどありませんでした。しかし、ナイロビに来てからは、必要に応じて英語を使わざるを得ない場面も増えています。最初は戸惑うこともましたが、今では簡単な挨拶やフレーズを覚えて、少しずつ使えるようになってきました。スワヒリ語の挨拶もいくつか覚え、ちょっとしたコミュニケーションに役立てています。一歩ずつですが、新しい言葉やここでのやり方に慣れてきている気がします。

こうした経験を振り返ると、「慣れる」とは毎日の少しずつの積み重ねだと感じます。これからも、もっといろいろな場所に行ったり、人と交流したりして、ナイロビの暮らしに慣れていきたいと思います。



アパートの部屋から見た朝日



鉄道博物館のジャカランダ

後期の抱負

10月1日（水）の後期始業式では、4人の児童生徒が後期の抱負を発表しました。

○ 中学部 2年

今日から後期が始まります。ふれあい祭りや学習発表会など、大きな行事が続きます。その中で私が大切にしたいのは、人との関わりです。この学校には、いろいろな地域や国から人が集まっています。だからこそ、多様な言葉や方言、伝統にふれるすることができます。私はもっと多くの人と話し、さまざまなことを知っていきたいです。

また、せっかくケニアにいるので、買い物や旅行のときに、英語やスワヒリ語で会話できるようになります。そのために、普段のあいさつに一言付け加えて、会話を広げることを心がけます。「言葉が通じないから」と人を避けず、積極的に関わっていきたいです。

こうした目標を持てるのは、先生方やアスカリさん、両親、友達が日々支えてくれるおかげです。本当に感謝しています。後期は、より明るく前向きに、一日一日を大切に過ごしていきます。

○ 小学部 5年

僕が前期に頑張ったことは、「ケニアのことを知り、ラフィキクラスのみんなと仲良くすること」です。僕がナイロビ日本人学校にきてから、半年が経ち、「ケニアに慣れる」という自分の前期の目標を達成することができました。例えば、本で調べたり、友達に聞いたり、ケニアのスーパーに行ったり、サファリに行ったりいろいろな経験を通してケニアのことを知ることができました。そして、友だちと仲良くしたい！という部分では、ラフィキのみんなから話しかけてくれたので、仲が深まり、ラフィキのみんなと仲良くなりました。そしてみんなと話したり、遊んだりして仲良くなれました。そして、また、5年生なので今年から委員会活動が始まりました。例えば、企画部として大根に毎日朝に水やりしたことや、いろいろと楽しめる企画をしたりしました。委員会活動は自分の中ではよくできたのではないかと思います。

後期の目標は「優先順位を考える」です。なぜその目標かというと、前期では、優先順位ではなく、「自分のやりたい順」でした。例えば、昼休みに、体育のカードを書かなければいけないので、水やりに行ってしまうことがあったからです。それでは「優先順位」ではないのでそこを後期では委員会のことも考えながら優先順位気をつけたいです。そして、次にやることがわからなくなってしまうときもありました。その対策としては、「to do list」を作り、優先順位を考えながら次にやることを整理できるのでいいとおもい、後期から優先順位を考えながらやることを整理できるように頑張ります。やることを整理して、優先順位を考えられる5年生になりたいです。

○ 小学部 4年

わたしが、後期にがんばりたいことの1つめは、前期に成長したことを続けることです。なぜなら、自分からあいさつができるようになったからです。他にも、新しい仲間と話すことができるようになりました。勇気をふりしぶって話したり、自分から話したりして、たくさん話すことができるようになりました。

2つめは、宿題をコツコツやることです。例えば、計算ドリルや計算スキル、国語ドリルなどをコツコツやることです。私は、毎日1・2ページできるようになりました。後期も続けたいです。

3つめは、字をうまくすることです。国語でたくさん練習したり、家で練習したりしています。うまくなりたいと自分で思っているので、毎回毎回練習して、もっとうまくなりたいです。

後期は、もっともっと成長して、今までの自分をこえたいです。特にきんちょうせず、大きい声で話すこともがんばりたいです。そのために、だれの前でも、大きい声で発表したり、クラスの中で発表するときや話すときには、大きい声で話したりすることが、私の後期のチャレンジです。

○ 小学部 2年

前期頑張ったことは、たくさんあります。その中でも特に頑張った三つのことを話します。

一つ目は、国語です。国語で「おがわ」をたくさん読めました。あと、国語の時間に「どうぶつ園のじゅうい」をみんなの前で読めました。

二つ目は、初めて持久走をしました。持久走記録会の目標は、700mでしたが、781m走れました。

三つ目は、いろんな友達と元気に過ごせました。あと、いろんな友達と遊べました。

後期もたくさん頑張りたいことがあります。その中でも頑張りたいことを三つ話します。

一つ目は、国語の「おがわ」を終わらせたいことと、漢字を頑張りたいことです。

二つ目は、後期も初めてに挑戦したいことです。それは、ピアニカを上手に弾けるようになることです。

三つ目は、後期もみんなで楽しく過ごしたいです。



11月の行事予定

日にち	内容
3日（月）	全校朝会・校長講話&懇談会
4日（火）	児童生徒会
5日（金）	校長研究協議会（中東・アフリカ地域日本人学校長 来校）
9日（日）	英検2次試験
10日（月）	なかよし相談週間（～14日（金）まで）
13日（木）	PTA役員会・学校運営委員会
15日（土）	ふれあい祭り
17日（月）	振替休業日
19日（水）	キャンプ学習 説明会
20日（木）	特別清掃・読み聞かせ・講話
21日（金）	English Trip
22日（土）	土曜フリー参観（1・2校時）/新入学生説明会（3校時～）
24日（月）	振替休業日
25日（火）	希望保護者面談
26日（水）	希望保護者面談（予備日）・校長講話&懇談会
27日（木）	ジャリブ⑦
29日（土）	親子スポーツ（バドミントン）

